

2030~2035

NA-1

水質が精緻にデータ化されるようになり、鳥取県の良質な水質データを反映した、水のマスコット化により、鳥取県産の水のブランド価値が高まる

概要

工場で人工水が生成されることが一般的になり、人工の飲料水が拡大していくことで、反対に天然水の価値が高まる。加えて、水質を詳細にデータ化できるようになることで、国内各地で水質データに基づき差別化された天然水のブランド化や、人々の川に対する水質保全への意識向上が進展する。

特に、名水の地である鳥取県では、より水質保全意識を高め、水質を良くしていくため、県内の源流ごとに各水質に合わせた「マスコット」を創り出し、身近な水の「いま」が分かりやすく示せるようになる。水源をマスコット化することにより、県内の水源所有地域同士が水質を競い合いながら、マスコットを育てていく(水質を良くしていく)ことで、より天然水の品質、価値が高まると同時に、今まで水質保全に関心のなかった層の意識も高まる。

こうした動きにより、鳥取県の水のブランド化が一層進展し、世界一のハイブランドウォーターが誕生する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

「水質保全」の意識をもっている人は少数



これからは

すべての鳥取県民が、水は「守り、育てる」という意識をもつ

2035~2040

NA-2

遠隔地でにおいや手触り感が共有できるようになり、鳥取県の観光資源を県外や海外でリアルに体感することで鳥取県への来訪のきっかけとなる

概要

視覚・聴覚に加え、鳥取県ににおいや手触り感といった臨場感・リアリティを遠隔でも共有できるVR/AR関連の科学技術が進化・発展する。このような技術を用いて、鳥取を体感できるイベント（例：「バーチャル大山登山」、「しゃんしゃん祭りの体験型パブリックビューイング」）が日本各地のみならず世界でも定期的に開催されることで、県内出身者にとっては、県外にいらながらも鳥取県を想起できて比較的容易につながりを感じられる機会となり、他県出身者にとっては、鳥取県の魅力やリアルをより身近に感じ、現地に足を運ばなくても手軽に接点を持てる機会となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

『鳥取県に訪問する』、『鳥取県のものを買う』など、鳥取県との接点のバリエーションが少ない



これからは

においなど臨場感ある再現技術により、より強固で幅広い接点の持ち方が生まれる

2035~2040

NA-3

鳥取県の自然や地域の雰囲気県外にいながらにして五感で共有できるようになり、鳥取県の魅力が余すことなく伝えられることで全国的に鳥取県コミュニティが形成される

概要

感覚を他者と共有できる技術が発展し、匂いや音、感触などを遠方の人にも伝えられるようになる。その技術を活用し、鳥取県で感じられる海の匂いや町の音、雪の感触などを県外在住者にも伝達することで、鳥取県出身であれば郷愁を感じ、県外出身であれば鳥取ならではの雰囲気、心地よさを感じるようになる。それにより、鳥取県への愛着を持った鳥取県ファンが増加し、鳥取県ファン同士が集う鳥取県コミュニティが全国に形成される。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県外では鳥取県の雰囲気を味わうことが難しい



これからは

いつでも、どこからでも鳥取県を体感できるようになる

2035~2040

NA-4

鳥取県民の親切さやホスピタリティの高さが数値化されることで、ホームステイ先や移住先に選ばれやすくなり、第二の故郷になる人が増える

概要

人間の性格や行動傾向の分析が一層進むことで、鳥取県民の親切さやホスピタリティの高さが全国でも上位であることが明確になる。定量的なデータに加え、鳥取県を訪れた人達の口コミによっても鳥取県民のマインドが多くの人に知れ渡ることとなり、観光スポットへの訪問だけではなく、鳥取県民と触れ合うことを目的として、鳥取県が旅行先やホームステイの受入先として人気となる。また、自身のライフスタイルの変化とあわせて居住地を変えることや二拠点居住の文化が一般的となることで、豊かな人間関係の構築が期待できる鳥取県への移住希望が高まる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県は旅行先の選択の候補に挙がりにくかった



これからは

鳥取県が第二の故郷となり、旅行先・移住先となる

2050~ 2055

NA-5

水や食料に情報が付与され飲食と同時に情報が得られるようになり、鳥取県に関する情報の入った水を飲むことで郷土愛が思いだされ、現在の居住地に関わらず鳥取県のために活動する人が増える

概要

進学や就職を機に鳥取県から都市部に移住した人の中には、当初は鳥取県への愛着、鳥取県へ貢献したい思いを持っていても、都市部で生活をしているうちに愛着や思いが薄れてしまう人も存在する。そこで、情報を付与した飲食物を摂取することで、その情報が脳にインプットされる技術を活用し、鳥取県の情報が入った飲食物を県外在住の鳥取県出身者に飲食してもらうことで、鳥取県に関心が向くきっかけをつくる。これを契機に、鳥取県への愛着や貢献したい思いが再燃し、居住地に関わらず鳥取県のために活動する人が増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

都会に出ると鳥取県を思い出す機会が無くなる



これからは

いつでもどこでも鳥取県を定期的に思い出すことができる

2050 ~ 2060

NA-6

残り寿命がわかる技術の普及により、人生の豊かさは「経済性」ではなく「個人の価値観」が基準となり、自然や人の穏やかさがある鳥取県が自分のペースで歩みやすい移住先として選ばれるようになる

概要

テクノロジーの進歩によって自身の寿命の見える化が進み、今以上に自分の生きる意味やライフプランを明確に考えるようになる。
その中で、経済性よりも個人の価値基準に沿った生活に重きを置く人が増加し、自分自身の人生の方向性を見出すための場所が求められる。
そこで、豊かな自然や人の穏やかさに加え、住民や移住者などの新たなチャレンジを地域や自治体が応援する環境が整っている鳥取県への移住者が増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

お金持ち=幸福 という価値観



これからは

幸福=自分で見出すものという価値観

2030~2035

NA-7

鳥取県の過酷な自然環境は、教育における非認知能力（※1）の中でも、心身ともに折れないレジリエンス性（※2）を高める最適な場になる

概要

教育におけるDX化の進行によりAIを活用した教育が主流となることで、座学学習の学習効率が向上する。その結果授業時間に余裕が生まれることから、各地域の特色を活かした学びが全国各地で活発になる。その中でも、鳥取県は雪、砂丘などの過酷な自然環境を活かした子どものレジリエンス性を高める教育の先進地となる。

例えば、夏の砂丘でのサバイバルキャンプや雪原登山、山奥での滝行など、鳥取県の過酷な環境を生かしたカリキュラムを作ることにより、鳥取県内居住の子供たちに対して高度なレジリエンス教育が提供されるほか、県外からの修学旅行でも人気の地域となる。

※1 計算力・語学力といった学力テストなどで測れる能力ではなく、忍耐力・協調性・自制心など人の心や社会性に関係する力で、数値での測定が難しい能力

※2 困難や逆境に直面したときにそれを乗り越える力

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

学校という限られたフィールドでの教育



これからは

鳥取県の自然を活かした高度で鳥取らしい教育

2035 ~ 2045

NA-8

自然と深く共存することにより山や川などと会話することが出来る言語「自然語」が生まれ、鳥取県はその言語を学ぶ場となる

概要

教育現場におけるDX化の充実により学校教育において都市部と地方の教育水準が均一化されることで、学外教育の重要性が高まり、各地域で独自性のある学外教育が発展する。鳥取県においては、豊富な自然環境を活かした学外教育が進展し、深く自然と過ごし自然の変化や兆しを読み取る経験を積むことで、自然と会話するかのように、森林・植物などの生育状況の的確な把握、災害危険個所の早期発見、天候の予測などが可能となるスキル「自然語」の習得に適した地域となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

地方は教育環境が乏しく、学びの機会が少ない



これからは

地方でも教育環境が整備され、地方でしか学べない学びが増える

2030 ~ 2035

NA-9

鳥取県は神話から続く伝説や地元で代々語り継がれる昔話が豊富で、それらに登場する人物とAR等の技術を用いて対話ができる地として認知され、タイムリーパー感覚での移住が増加する

概要

「因幡の白兎」や「羽衣天女伝説」など、神話から続く伝説や地元で代々語り継がれる昔話が豊富な鳥取県において、それらに登場する人物や動物を当時の施設や設備と合わせてARにより再現し、伝説や昔話の世界をリアルに体験できるコンテンツが県全域で普及する。以前よりも深く伝説や昔話の世界に入りこむことができ、タイムリーパー（時間旅行者）感覚での新たな生活スタイルを求める人の滞在・移住が増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

神話・伝説とのゆかりが居住地選択のポイントに含まれていなかった



これからは

神話・伝説と触れ合える機会を作ることで移住者増加につながる

2035～ 2045

NA-10

先人のデータをインプットした擬人化AIやロボット技術により、先人も一人の鳥取県民となって、担い手不足の解消や地域活性化の活動を行うようになる

概要

AI・ロボットに個人のデータをインプットすることで、本人のように振る舞うことができる擬人化AI・ロボット技術が発展する。人口減少、少子高齢化が進む鳥取県では、この技術を活用し地域の担い手不足解消や地域活性化につなげるようになる。例えば、長年鳥取県に住んでいた人のデータをインプットした擬人化AI・ロボットが鳥取県の歴史や伝統技術等を教える仕事や専門的な知識を生かした地域活動などに従事することで、先人の知恵を生かした教育や地域活性化につなげることができる。そして、擬人化AI・ロボットも一人の鳥取県民として扱われるようになり、擬人化AI・ロボット共存県として全国的に注目される。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

先人の価値観や経験を受け継ぐことが難しかった



これからは

先人も1人の県民として扱われ、その価値観や経験を直接学べる

2030~2035

IN-1

AIが所有者の感性に合わせて、旅行の内容と移動をトータルコーディネートすることで、これまで認知度が低かった鳥取県のディープスポットが人気になる

概要

これまでの旅行の主流は、有名な観光地や飲食店巡りなど、知名度の高い場所を目指すものだったが、これからは各個人の趣味や嗜好、感性に合わせてAIが旅行の内容や移動をトータルコーディネートする形式へと変わり、これまでは認知度が低かったが、高いポテンシャルを持っていた場所やコンテンツが人気となる。特に、多くの人に知られていない場所やコンテンツが眠っている鳥取県においては、自分だけが知っている、自身の感性に刺さるディープスポットと出会える場所として、コアなファンが増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県への旅行は、有名な「観光地」と呼ばれる場所を巡るスタイル



これからは

鳥取県への旅行は、個人の感性に合った穴場スポットをAIが提案してくれるスタイル

2030~2035

IN-2

情報過多な世界の中で教育現場におけるデジタルデトックスが全国的に重要となり、鳥取県はデジタルを使わないリアルな体験学習ができる県として知られるようになる

概要

教育機関は自ら学び自ら考える力などの「生きる力」に加え、人生120年時代を迎え、長寿化の中で自分の健康を大切にする力を育成することが求められる。そこで、幼少期からデジタルデバイスに当たり前に接し、情報の洪水を受け続けている学生に対して、心身の健康増進のため、意識的にデジタルデバイスから離れ、自分自身と向き合う（＝デジタルデトックス）環境を用意することが義務化される。鳥取県の特徴である光や音の刺激が少ない環境はデジタルデトックスを行うフィールドとして最適であり、鳥取砂丘や三徳山、さじアストロパーク等を活用した瞑想修行や五感をフルに活用したリアルな体験ができるアクティビティといった授業/コンテンツの開発が盛んとなり、鳥取県は修学旅行の主要訪問先の1つとなる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

「学び」を目的とした修学旅行



これからは

「健康」を目的とした修学旅行

2035~2040

IN-3

ストレスの可視化が一般的なものとなり、検査・治療に加えて予防の観点からも癒しや健康を実現する鳥取県のメディカルツアーが人気になる

概要

遺伝子データや各種行動・環境が身体に与える影響の解析技術向上により、身体と幸福の関係性が数値化され、個人の欲求に応じた生き方や行動が選択可能な時代が訪れる。鳥取県の豊かな自然環境が人間の心身に与える効果が数値化されることにより、全国的に見ても癒しや健康などへの影響が高い数値であることが示され、鳥取県に癒しや健康を求めた観光客等の来県が多くなる。

また、鳥取県に移動するまでの間に健康状態の計測・結果の可視化が行われ、鳥取県に到着すると各人の健康状態の結果に応じた最適なプログラム（サイクリングによる筋力強化、ストレス軽減のための森林浴など）が用意されることで、人々は鳥取での癒しや健康の効果をすぐに実感できる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

メディカルツアーは、対処療法的なコンテンツのみで構成



これからは

メディカルツアーは、治療のみでなく、病気予防や健康増進まで考慮したコンテンツで構成

2040~2045

IN-4

鳥取県の雪、酷暑、曇天などの過酷な環境など一見マイナスに見える点と技術を組み合わせる逆転の発想でイノベーションが多発するようになる

概要

大雪や酷暑、短い日照時間といった過酷な気候、人口減少による空き家の増加など、鳥取県は様々な自然的・社会的困難に直面している。

そういった環境下だからこそ、身近な課題を解決するためのアイデアやチャレンジする人材が生まれ、事業化も進みやすくなる。

例えば、雪による発電や冷却手法の開発、砂電池の改良といった技術的なもの以外にも、曇天をポジティブに捉え直すアート活動や、空き家を使った拠点整備など、逆転の発想を用いた価値観の転換を伴う活動が生まれていく。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県は気象条件の悪い、住みにくい土地



これからは

鳥取県は世界各地に適用可能な"事業の種の宝庫"であり、人間が成長するために最適な土地

2025~2030

IN-5

鳥取県の農林水産業では、仕事風景や日常生活を配信やVRでアピールすることが一般的となり、販売収入だけでなくコンテンツビジネスとしての収益化もできるようになる

概要

動画配信やVRの活用により、農林水産業が現場から離れた地域かつ初心者でも親しみを持ちやすくなり、ゲームと同じ階層のエンターテインメントとして浸透する。「推しの生産者」という概念が一般的となり、例えば投げ銭的な形で現地での水やりに対して課金したり、自らの労働力をギフトしたりすることでより強固なつながりがもたらされる。

また、台風や大雪等の自然災害の前に突発的に発生する収穫作業などを緊急ミッションに見立てて遠隔から支援を行ったり、早めに収穫した商品を率先して購入する関係性も生まれる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

売る→買うの一方的関係



これからは

お互いのリソース（時間、空間、体験）を共有する双方的関係

2030~2035

IN-6

安定した大量生産技術の普及により画一化された農産品に対して、小規模な生産者は価値観やストーリーの表現による差別化を行うようになる

概要

気候変動の影響をきっかけとした農産品の工業化（AIによる栽培技術指導、生産工程の自動化）により、農産品の生産方法が画一化されることで、効率的に生産が行えるようになるが、商品の質や味などによる「ご当地らしさ」を打ち出すことが難しくなる。

また、消費者の関心は質や金額から、生産者の価値観や企業理念、栽培・製造過程といったストーリーへと変化していき、応援消費を行うことが一般的となる。

そこで、小規模な生産者は、環境配慮や地域課題解決を意識した商品であることや、生産者自身がどのような思いで事業を始めたのかなどの情報を、動画配信やSNS等最新の情報伝達手段を駆使してPRする販売方法を取り、「モノを生産する」だけでなく、「モノを表現する」存在としても注目されるようになる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

価格やスペックで商品を選ぶ



これからは

生産者のバックグラウンド・価値観・企業理念で商品を選ぶ

2045~2050

IN-7

健康への効果が明示されたシン・鳥取野菜(長生き野菜、筋肉野菜)の生産が盛んになり、食べ続けることでなりたい体を手に入れることが可能になる

概要

食べ物や習慣と人体への影響の因果関係が明らかになることで、個別の野菜の栄養価やそれらを摂取した際に生じるそれぞれの効果まで明確になり、自分の課題の解決や、なりたい自分を実現するための野菜を食べようになる。

また、生産者側にも野菜摂取後の人体への影響やどのような背景からその野菜を摂取するに至ったかのフィードバックが行われることで、鳥取の特産品であるブロッコリーや長いも等の栄養価の高い野菜においても、より消費者ニーズに合わせた形での品種育成や生産面での改良が進む。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

消費者は、表示された成分や農法を踏まえ、安全性や美味しさを基準に購入



これからは

消費者は、立証されたデータを基準に購入し、逆に消費者自身の検証データも提供より自分に適した野菜（シン・鳥取野菜）を求めるようになる

2055~ 2060

IN-8

砂地農法の技術の更なる進化により、鳥取県は月面での食料生産をリードし、月面生活で必要不可欠な技術をサポートする役割を担う

概要

宇宙への移動が簡単にできるようになることで、月面開発が進展するとともに、月への移住希望者が増加し、月面での食糧生産が必要となる。砂丘を月面に模した実験等で宇宙産業をリードしてきた鳥取県は、月面での食糧生産分野にも開発範囲を広げ、鳥取砂丘の砂地農法を応用した月面農業技術を確立する。月面での農業生産サポート、技術を伝授する仕組みを構築することで、鳥取県は月面農業における先進県となり、世界から注目されるようになる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県の砂地農法は、地球上での農業に活用するもの



これからは

鳥取県の砂地農法は、宇宙での農業でも活用するもの

2050~2060

IN-9

砂丘を中心に月面開発に関する実験・研究をリードしてきた鳥取県は、さらに、重力・気温・地質等の月面環境を完全再現することで、月面開発に向けた最先端地域となる

概要

多様な環境を再現できる技術が発展し、砂丘を中心に月面を模した環境での実験等で宇宙産業をリードしてきた鳥取県では、宇宙産業の更なる発展をめざし、重力、気温、地質等の月面環境を完全再現した施設が整備される。それにより、鳥取県をフィールドにした月面実証実験が更に進展し、月面開発に向けた最先端地域となる。加えて、月面移住に向けた訓練施設や、月面体験の観光スポットとしても活用されることで、国内外から様々な目的を持った人が集まる地域となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

擬似の月面実証が可能な鳥取県



これからは

本物の月と同様の環境を実体験できる鳥取県

2070 ~ 2080

IN-10

宇宙での生活や宇宙と地球の二拠点居住が一般化し、自然豊かな鳥取県が宇宙との中継地点として憩いの地となる

概要

宇宙船打ち上げ技術の進化や、宇宙エレベーターの稼働開始等により、観光目的でも気軽に宇宙へ行くことができるようになる。それに伴い、月、火星といった地球の外にも居住地を持つ人が増加し、地球と宇宙の二拠点居住が一般的となる。
二拠点居住者の宇宙空間（宇宙船内、月、火星）での生活は人工物に囲まれた無機質なものであることから、地球での生活は自然豊かな場所で過ごしたいとのニーズが高まり、自然豊かな鳥取県が憩いの地として人気を集める。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県に対して、具体的なイメージが想起されにくい



これからは

鳥取県は自然豊かで、ゆっくりするために行きたいところ

2025~2030

IN-11

民芸・伝統芸能は、マニュアルの自動生成や、3Dプリンタによるデジタル再現により、後継者がいなくても文化が保存される

概要

鳥取県にはしゃんしゃん傘（因幡の傘踊り）や弓浜鉾など民芸品や伝統芸能が多く存在しているが、作り手の高齢化や後継希望者の減少傾向により、技能・ノウハウの断絶が懸念されていた。

しかし、職人や技能者の作業・動作を詳細に映像やインタビュー、モーションキャプチャー等で記録し、デジタルデータとして保存することで、広く共有知として保管できるようになったうえ、後継者がすぐに見つからなくても将来的に誰かが確認できる状態となる。

後継者が現れた際には、収録したデータをもとに製作ノウハウを自動インプットしたデジタル職人が画面に現れ、弟子の様子をカメラで検知し、リアルタイムでの指導が可能となっている。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

民芸・伝統工芸の後継者が育たず、技能・ノウハウ等が断絶してしまう



これからは

ノウハウのコンテンツ自動生成や、AIやVRを活用したリアルタイム指導、3Dプリンタによるデジタル製造再現により、文化が保存される

2040~2045

IN-12

鳥取県の後継者不足で悩む経営者をサポートするため、小中学校で経営を行う部活が立ち上がり、外部の支援を受けながら企業を経営するようになる

概要

人口減少に伴い、企業活動においても特に中小企業の後継者不足問題が一層顕著となり、解決策の1つとして子どもの経済活動への参加が進行する。そこで、義務教育の学校の部活・課外活動として「会社経営」のカリキュラムが創設され、希望者が経済活動に取り組む環境が整い、小中学生が実際の企業を用いて実践的な経営を学ぶ世界となる。経営の一線を退いたシルバー人材による指導やAIによる業務フォローも受けて、最終的には、学校に通いながら週3日・短時間勤務で会社経営を行う「小学生社長」が誕生する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

小中学生は経済活動に加われない



これからは

小中学生の経済活動が課外カリキュラムとして実現

2030~2035

SA-1

県内の過疎地域では、ドローンやロボットを活用した生活支援が当たり前になり、そのノウハウを生かして災害に対しても、スムーズな遠隔支援が実施される

概要

鳥取県内の過疎地域では、住民の買物支援や住居インフラのメンテナンスの為にドローン輸送やロボット作業が導入され、県内他地域からの遠隔支援が日常化していく。その結果、鳥取県内では独自に、遠隔作業支援のノウハウが蓄積していき、日本全体で災害が発生していく中で、他県での災害に対し、蓄積されたノウハウを基に遠隔作業での支援を鳥取県がリードしていく。

また、鳥取県内における災害に対しても、遠隔作業による支援の受け入れ体制が整っていることで、県内他地域のみならず、他県からもスムーズに支援を受入れることができ、迅速な災害復旧が実現する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

リアルな現場での人力での災害支援のみ



これからは

県内での遠隔作業が日常化し、災害時は県内外が相互に遠隔作業支援する体制ができる

2040~2045

SA-2

バスやタクシーは移動に加え、地域住民の交流や文化芸術の表現活動など幅広い目的の多機能型サードプレイスの役割を果たす

概要

自動運転の普及により、現在よりも車両内のスペースが広く確保できることに加え、乗務員は運転業務から解放され、運転業務以外の新たな役割を担う。余白が生まれたバスやタクシーの車内がライブハウス、映画館、公民館、病院などあらゆる用途で活用可能となることで、移動を目的としたユーザーのみでなく、バスやタクシーに乗車すること自体を目的としたユーザーも乗車するようになる。これにより、バスやタクシーに人が集まるようになり、地域の情報も自動的に集約されるようになるとともに、公共交通を起点とした多世代間での交流が一般的となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

自家用車が普及している中で、バスやタクシーを利用しない
地域の情報を手軽に収集できる手段が少ない



これからは

公共交通が双方向型のコミュニケーション拠点となる

2040~2045

SA-3

利用者の潜在的なニーズと、店舗・施設のメニューにはない隠れたサービスなどの精緻なマッチングが行われるようになる

概要

鳥取県のように店舗、施設の少ない地域では個人経営の店舗が多く、メニューには載せてないこだわりの逸品や隠れたサービス（ex.保育士資格を持った店員が子供の相手をしてくれる商店等）のある店舗が多い。今までは口コミでしかそのような情報は共有されてこなかったが、AIによる情報収集精度の向上により地域の店舗情報がストックされるとともに、利用者側の潜在的なニーズに踏まえて、それらの情報がピンポイントで利用者に提供される。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

鳥取県は、お店の数が少なく、詳細な情報を探すのにも一苦労



これからは

鳥取県は、顧客が求めている言語化していないサービスにリーチでき、店舗数に比してバリエーションは豊かな地域として認知

2030~2035

SA-4

AIとの会話やライフログ（※）のセンシングで、家庭・地域の状況(幸福度・トラブル)がわかり、迅速な共有や対応が行われるようになる

概要

日常会話や行動など生活上のあらゆるライフログを収集する（＝センシング）デバイスが開発され、各家庭で収集した情報を基に必要な情報を整理して提供してくれる。
また、日常生活において支援が必要であると思しき問題（ストックがあるのに同じものを繰り返し購入する、同じ内容の話を繰り返すなど）を検知すると、行政機関や医療機関等に情報が自動的に発信され、事態が深刻化する前に支援の手が入る。
さらに、普段から住民の気軽な会話相手になり、近所の人には相談しにくい困ったことが起きた場合も、デバイスを通じて適切な機関からの回答を得ることができる。

※人間の生活・行い・体験を、映像・音声・位置情報などのデジタルデータとして記録すること

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

助けを自ら求めないと支援を受けることが難しい



これからは

細やかに支援の手が自然と入るようになり、安心が広がる

2035~2040

SA-5

ライフログ（※）活用により、子どもと高齢者など異なる世代間での出会いや相互見守りが創出され、ゆるやかな関係構築と役割に応じた報酬が得られるようになる

概要

学びの方法が多様化する中で、学校での学びと社会での学びの境目が薄れ、さらに生産年齢人口の減少に伴い、子どもも学習活動の一環として社会で一定の役割を果たす機会が多くなる。AIによるマッチング等を活用した見守りサービスが充実することにより、子どものみで留守番している家庭の見守りが地域の高齢者によって行われるようになるとともに、子どもたちも地域の高齢者の手伝いや話し相手といった役割を持つことで、子どもと高齢者相互の見守りが実現する。また、地域の子どもたちによって高齢者の行動や生活の記録（ライフログ）の取得が進むことで、ライフログは孤独死や防犯対策などの高齢者に関する問題解決にも活用され、地域内に高齢の親を持つ県外在住の人から地域の子供たちへ対価が支払われるビジネスへと展開していく。

※人間の生活・行い・体験を、映像・音声・位置情報などのデジタルデータとして記録すること

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

地域内の接点が少なく、孤独を感じる子どもや高齢者が存在している



これからは

ライフログを活用し相互に見守りが実現、ビジネスへと展開する

2040 ~ 2050

SA-6

感覚が共有できる技術により、災害時だけでなく平時でもタイムリーに意思疎通し、障がいの有無や子ども・高齢者などを問わず平等に安心が担保される

概要

感覚共有技術によって、五感が共有できるようになることで、災害発生時に視覚や聴覚を共有でき、高齢者や身体障がいのある方にも適切かつ迅速な情報発信、避難指示が可能となる。地震や豪雪などによって家屋の倒壊に巻き込まれてしまった場合には、被災者自らが感覚共有を行うことで、自身の状況や被災場所を周囲の人に伝えることができ、迅速な救助につながる。

また、平時においても、子どもや高齢者、障がいのある方がこの技術を活用して自らの感覚を発信することでよりスムーズな意思疎通を図ることができるなど、県民皆が安心して暮らせる鳥取県となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

災害時において、意思疎通が難しい人は避難が困難



これからは

災害時の意思疎通が、感覚共有により誰でも容易になる

2040~ 2045

SA-7

誰もが所有する自分専用の肩乗りAIが、能力や知識を十分に発揮するためのきっかけづくりをし、自己実現をサポートする

概要

AIがより高度化・一般化することで、すべての人が自分専属のAIを所有するようになる。専属AIは、所有者の身体的状況や行動、感情等のデータをすべて把握・分析することにより、所有者に対して最適な行動提案や潜在的なニーズの提示を行うことができる。また、常に肩に乗せて行動することで、気軽に相談や雑談ができるなど、新たな家族のような存在となる。

専属AIがいることによって、「地域のために活動をしたい」、「鳥取県で起業したい」といった所有者の潜在的な自己実現欲求が掘り起こされ、専属AIの知識やデータも借りることで、多方面で活躍する人材が増加する。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

生まれた環境や能力によって、本当にやりたいことへの一歩を踏み出すことが難しい



これからは

生まれた環境や能力に関係なく、やりたいことを積極的に行うことができる

2040 ~ 2050

SA-8

思考を他者と共有できる技術が進展し、価値観の合う人や助けを必要としている人と繋がることができ、自分が活躍できるコミュニティには自然に参加できる

概要

思考共有技術によって、言葉以外の方法でもコミュニケーションが取れるようになり、自分と価値観が合う人やコミュニティとつながることができるようになる。
また、サポートが必要な人の思考もキャッチできるようになり、共助のまちづくりにつながる。
加えて、言葉で伝えることが苦手な人でも、自分が得意なことや経験などを思考共有技術によって発信することにより、自分が活躍できるコミュニティに参加し易くなることで、自分の役割、価値をより強く感じることができ、地域活性化にも貢献できる幸福度の高い社会となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

大きなキッカケがないとコミュニティには属さない



これからは

小さなキッカケからコミュニティに参加することができるようになる